

令和元年5月 データから見た業界の動き

■ 概 況

5月の山梨県内のD I値は、全体で売上高は▲6ポイント（対前年比▲14）、収益状況は▲16ポイント（対前年比▲8）、景況感▲22ポイント（対前年比▲22）となり、いずれの項目とも昨年より悪化した。

製造業では、売上高▲15（対前年比▲30）、収益状況▲30（対前年比▲25）、景況感▲35（対前年比▲35）と大きく悪化、飲食料品製造は概ね対前年比同等の状況であったが、自動車部品やスマートフォン等半導体関連の工作機械部品製造・加工業界では米中の貿易摩擦の影響による経済の低迷を受け、在庫調整や受注の落ち込みが続く。

非製造業では対前年比で売上高±0（対前年比▲3）、収益状況▲7（対前年比+3）、景況感▲13（対前年比▲13）と、製造業に比べ落ち込みは少ないが、先行きの不安から景況感悪化した。

製造業と同様に、米中の貿易摩擦の影響から中国の景気減速が顕著となり古紙、廃プラ・金属製廃棄物、ジュエリー製品等の取引が減少傾向にあるとの報告があった。

また10日間の大型連休があったが、連休中稼働しない業種では売上が減少、宿泊やタクシー業界においても連休中の利用者増加にはつながらず売上減少、燃料費等の高騰から収益確保が難しいとの報告があった。

業種を問わず仕入れ価格、燃料費、人件費等のコストの上昇傾向が続いており、世界的な経済低迷の予兆から景気回復の先行きを懸念する声は日に日に高まっている。この中で消費税増税が実施されることになれば、さらに景気は悪化することが予想され、中小企業者の経営は厳しい状況となる。

今後の経済情勢を的確に把握し、必要な施策等情報提供を強化していくものとする。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調だが、ホテル・レストラン・居酒屋用の業務用及びおせち原料が好調で、全体の売上高は前年同月比で106.9%と好調に推移した。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の輸出は好調だが、量販店・専門店向けは連休前の需要の反動から大きく落ち込み、前年比93.1%。OEMは冷凍ケーキが低調であったが、焼き菓子が好調で115.7%。全体の売上高は前年同月比104.3%となった。
食料品（麺類製造）	笛吹市新名物「ラーメン×ほうとう」の「ラーほー」を取り扱う店舗が増加傾向。新しい麺の食べ方の提案が、業界の発展につながることを期待している。
食料品（パン・菓子製造業）	6～8月は閑散期だが、9月～年末の繁忙期に向け人材の確保が課題となっている。
食料品（酒類製造業）	日欧EPA発効後はEUからの輸入ワインの売上が伸びたが、その後の影響は小さかった。消費者は日本のワインの良さに気づいており、業界としては消費者のニーズに応えることが重要だと考えている。

繊維・同製品（織物）	環境省が行う熱中症対策として男性の日傘活用推進により、売り場では反応があるようだが、傘地の生地生産はすでに終了している。ネクタイは秋冬のOEM注文待ちで、今はヴァンフォーレ甲府等からのスポットで入る注文の対応を行っている。
木材・木製品製造	仕事量は新年度に入り増えてきたが、人材不足が課題となっている。
窯業・土石（砂利）	公共工事の発注件数により、需給量・売上高の地域差が大きい。公共工事の増加に期待している。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	景気の悪化が続いている。いつまで続くのかわからない状況
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	世界経済の低迷や米中の貿易摩擦の影響から、中国への自動車部品・半導体設備の輸出の減少が続く。今後も落ち込み傾向であると考えている。
一般機器 （工作機械部品加工業）	雇用数は堅調に推移。倉庫の増設等の設備投資も続いている。
電気機器 （工作機械部品加工業）	大型連休明けの受注増加を期待したが、4月より状況は悪化した。半導体関係に限らず全体的に動きが悪くなっている。
宝飾（貴金属）	受注の減少はしばらく続くと考えられる。

● 非製造業

卸売（紙製品）	米中貿易摩擦の影響による中国の工業生産の落ち込みにより、古紙の需要も減少。同時に国内需要も落ち込み、製紙メーカーは生産減となり古紙問屋は在庫増となっている。今後さらに減速が続けばリーマンショックよりも落ち込むのではないかと懸念している。
卸売（ジュエリー）	国内の流通は悪く、回復する兆しが無い。6/20～23日に開催される香港ジュエリーショーでの中国バイヤーの動向に期待している。
小売（青果）	連休中の売上が大きく、前年同月比5.7%増加した。しかし連休後の売上は減少、梅がシーズンだが不作のため高値で推移している。玉ねぎは小玉傾向で安価で取引されている。
小売 （電気機械器具小売業）	エアコンの早期出荷等が活発に進み、対前年比で大幅に増加。しかしエアコン以外の主力商品が減少傾向で、全体の売上高は前年同月比5%増加に留まった。エアコンの在庫確保等で資金繰りは悪化している。
商店街	全体的に仕入価格が上昇し、収益状況を圧迫している。10月の消費増税による影響を懸念している。
宿泊業	大型連休の前半は満室が多かったが、後半は空室が目立った。人手不足が課題となっている。
産業廃棄物処理	中国の廃プラスチック・金属の輸入禁止により、日本の廃棄物の行き場が無くなり処分場が悲鳴を上げている状況。このため処分費の値上りにつながり排出業者の負担が増加している。処理単価の問題のみならず、処分業者が搬入制限を行い廃棄物の行き場所がなく、大きな問題となっている。
一般廃棄物処理	中国の廃プラスチックの輸入禁止により、国内での処理が滞留する問題を受け、国は産業廃棄物として排出された廃プラを一般廃棄物の処分場で受け入れを行うよう方針を示した。

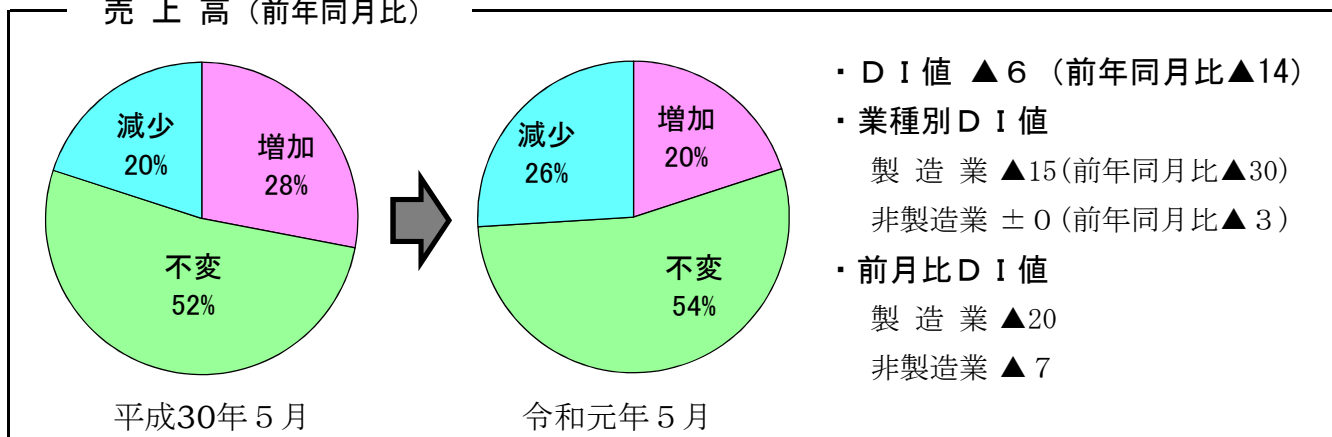
警 備 業	工事の受注が減少する閑散期となり、働き方改革に伴う有給休暇の取得や警備員に対し研修教育を実施しているため、売上高、収益状況は悪化した。6月までは公共工事が極めて少ない状況である。また賃金の引き上げを行うが応募者は少なく、警備員不足の解消をどのように図るかが課題である。
自動車整備業	大型連休の影響から売上高は減少した。
建設業（総合）	5月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ、件数17%、請負金額27%それぞれ減少した。前月は大幅な増加を示したため今後の状況を注視していく。
建設業（型枠）	県内の仕事は堅調に推移しているが、比較的仕事が少ない長野県・静岡県等から職人が来ており、人手不足は感じない。公共・民間工事ともに繁忙であるが、秋以降は不透明である。
建設業（鉄構）	高力ボルト不足による工期遅れに対応するため、受注調整が行われている。鉄骨の建て方ができないことにより鉄骨を使わない工法への変更が心配される。
設備工事（管設備）	建設業での休日取得状況は4週6休が最も多く、労働者不足の現状が表面化している。厳しい工期や労働者の収入減少等を考慮するなか、働き方改革への取り組みに頭を悩ませている。
運輸（タクシー）	例年5月に比べ大型連休の影響から、乗客数が減少した。（特に夜間の利用者が減少）燃料費の価格上昇が続く。
運輸（トラック）	大型連休による稼働率の減少から、売上高が10%悪化した。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

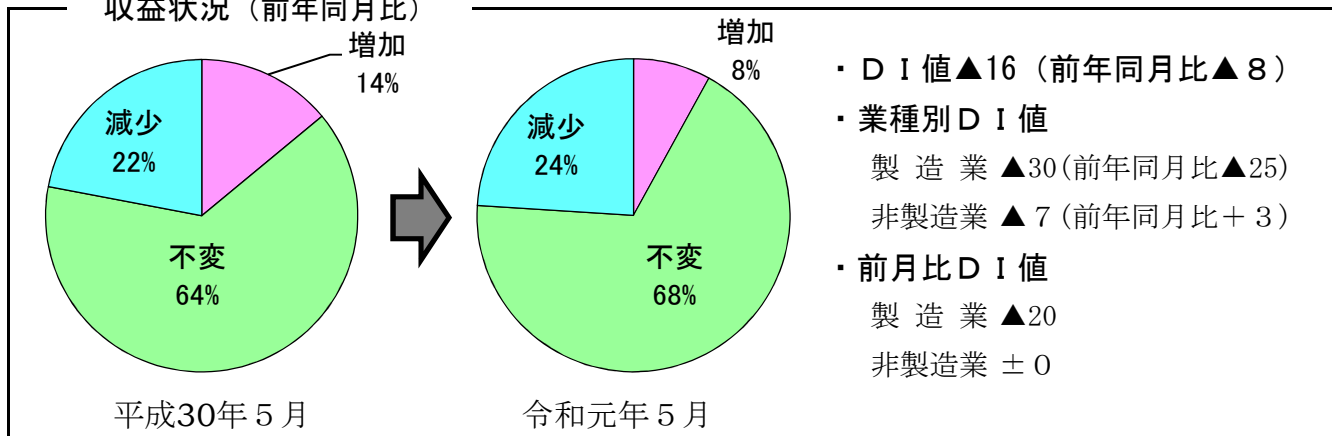
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2018/5	2019/4	2019/5	2018/5	2019/4	2019/5	2018/5	2019/4	2019/5
売 上 高	15	5	-15	3	7	0	8	6	-6
収 益 状 況	-5	-10	-30	-10	-7	-7	-8	-8	-16
景 況 感	0	-25	-35	0	-13	-13	0	-18	-22

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

